



行動を変えることで気持ちを変えることができる

11月のはじめの1週間、ヨリネスしばたの1階で「星野富弘花の詩画ミニアート展」が開催されました。佐中生のなかにも、ミニアート展を見に出かけた人もいます。略歴によれば、星野さんは大学を卒業後に中学校の体育教諭となった年に、クラブ活動指導中に大ケガを負い、首から下の運動機能を失い、以後9年に及ぶ入院生活の中で、口に筆を加えて文や絵を描くことを始めたとのこと。星野さんのすばらしい「詩画」は、展覧会や出版物、あるいは星野さんの作品を常設展示する群馬県の富弘美術館などで広く知られ、多くの人たちを励ましています。みなさんは、星野富弘さんと同じようなケガを負い、車イスが不可欠な生活を送りながらも、ケガの4ヶ月後には教員に復帰した腰塚勇人さんという方を知っていますか。



ヨリネスに飾られた大ポスター

腰塚さんは、休日のスキー中に転倒し、後頭部から雪面に叩きつけられて、大ケガを負いました。転倒直後に、身体に力が伝わらず、「どうやってこれから生きていけばいいんだ。」という思いに襲われ、とても苦しみました。車イスでの生活が始まるという現実と直面しながらも、当事者としてその事実をポジティブ（前向き）にもネガティブ（悲観的）にも解釈はできるが、ネガティブに考えても一つもいいことはないと思いつめた腰塚さんは、その心境を次のような文章にしています。

「自分が起こした事故を悲観ばかりしていても何も始まらない。この事故を貴重な経験だったと前向きにとらえ始めると、周囲の見え方も違っていった。事故前は、毎日忙しく、まるで「新幹線」のような生き方だったが、事故後には「各駅停車の電車」のような生き方になった。しかし、新幹線では見えなかった、これまでと違った景色が見えるようになった。」

入院中にはいろんなことに思い悩み、切羽（せっぱ）詰まって「心が折れる寸前の心理状態」であった腰塚さんは、笑顔を手掛けるだけで、ネガティブになりがちな気持ちに一瞬でもブレーキがかかるようになりました。「気持ちが変われば行動が変わる」のは当然ですが、「行動を変えることで気持ちを変えることができる」ことに、新鮮な驚きがあったそうです。

障害の有る無しにかかわらず、自分の現状や今の実力をよく理解した上で、「周りの人との比較で、自分に優劣をつける」のではなく、「自分が自分の取組に納得でき、OKを出すことができるか」を基準に置くことで、その後の成果は大きく変わってきます。

腰塚さんは事故から4ヶ月後に学校に復帰し、中学3年生の学級担任として、受け持ちの生徒たちの卒業そして進路実現に向け努力を惜しみませんでした。腰塚さんは事故後、身体を思うように動かすことができなくなりましたが、次の5つの誓いを立てています。

口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
目は、人のよいところを見るために使おう
手足は、人を助けるために使おう
心は、人の痛みがわかるために使おう



中学校の図書室には、星野富弘さんの詩画カレンダーを掲示しました。

星野さんや腰塚さんのように、つらい体験を経ながらも自分の持てる力を最大限に発揮し、たくましく日々を送る姿から、私たちが教えられることがたくさんあります。

参考図書 腰塚勇人著 「命の授業」（ダイヤモンド社 2010年）

11月14日(火) 2～3限の2時間、3年生がたから保育園を訪問して保育実習を行いました。保育園の教職員のみなさんからだけでなく園児のみなさんからも温かく迎えてもらい、とても充実した時間となりました。生徒はやや緊張した表情で保育園を訪れましたが、園児さんたちのニコニコとした笑顔や元気な歓声に助けられ、時間が進むごとに緊張も和らぎ、園児さんたちにとっての優しいお兄さん・お姉さんとして楽しい時間を過ごすことができました。生徒の保育実習をお引き受けいただいたたから保育園のみなさん、ありがとうございました。



3年女子 I

ずっとおゆうぎ室にいて、なわとびやボール投げをしていました。最初は、園児も私も緊張していて、一緒に遊ぶだけだったけど、1人の園児が手をつないでくれたから、たくさんの子が来てくれて、いろんなところに引っ張っていかれたり、足にまきついたり、「だっこして～」とか、「おんぶ～」とか言ってもらえたりして、すごく楽しかったけど、汗だくになりました。でもそれをハンカチでふいてくれてうれしかったです。こんなにたくさんの子と毎日、何年も何十年も一緒にいる園のお仕事の大変なところも感じましたが、たから保育園出身の私だけでなく全ての卒園生がほんとにすごく愛されて育ったんだなと思いました。

3年女子 S

最初に園児さんと対面した時には、たくさんの不安や心配がありました。ですが、保育園の先生による歌に合わせて手や指を動かす手遊びが始まり、中学生の私たちも園児と同じように参加するうちに、リラックスできました。3つのグループに分かれて園児と遊ぶことになり、私はおゆうぎ室で、パーツを組み合わせて遊具を組み立てる準備に取りかかりました。先生方に優しく教えていただき、園児のみんなも手伝ってくれたので、準備から楽しかったです。長縄跳びをするときに、中学生がお手本を見せると、園児のみんなが拍手をしてくれました。「一緒にやる！」と言ってくれた園児と2人で跳んだりして、2人で40回以上も跳べて楽しかったです。小さな子が笑顔で寄ってきて、いっぱい笑えて、自分自身もこんな風に育てられたのかなと思いました。とてもいい経験になりました。



3年女子 N

小さい子と接する時にはこちらが視線を同じ高さにすることで、園児を怖がらせないということを、今回の体験で改めて分かりました。ボールで遊ぶときには、強く投げないことを気を付けながら、楽しむことを意識しました。粘土で遊んでいるときに、なつかしいな～と感じました。イスも机も何もかもが小さかったです。「おんぶして」と言われたことがとても嬉しくて、すごくかわいかったです。また行きたいです。



3年女子 H

たから保育園に行くのは久しぶりで、自分の身の回りにも小さい子がいないので、園児とちゃんと話したり接したりするのは大変でしたが、とてもいい体験ができたと思いました。途中、何をすればいいかわからなくなったときもあったので、保育実習はすこし難しかったです。おままごとや

新聞でものを作ったりする遊びも、園児の手助けをもっとしてあげたかったです。

私たち中学生の合唱をちゃんと聞いてくれるか心配でしたが、しっかり聞いてくれたので良かったです。園児のみんなは、大縄跳びやボール遊びなどいくら遊んでも元気なのはすごかったです。

3年女子 K

訪問する前は本当に不安でした。誰も来てくれなかったらどうしようとか、色々考えていたけど、実際はそんなことなくとても楽しかったです。最初はおゆうぎ室で縄跳びやボールを使って遊びました。1人でいるかなと思う子にも声をかけて一緒に遊べたし、幼児の方から私に寄ってきてくれたときはとても嬉しかったです。その後は、おままごとの方に行きました。粘土でいろいろ作っている園児が、作ったのを見せてくれました。おままごと室から出るときには、園児に靴下を履かせてあげたりもしました。お別れの会では、歌を真剣に聴いてくれる園児がたくさんで良かったです。私たちが帰る時のハイタッチも、優しくったり、強かったり、みんな可愛かったです。



3年男子 Y

たから保育園の園児たちは、皆ちっちゃくて、かわいかったです。園児のみんながとても元気で、僕は明るく接するのに体力を使いました。保育園で働いている先生方は毎日こんな大変なんだなあと思いました。自分が卒園した頃にも勤めておられた保育士さんが、僕のことを覚えていてくれたことに驚きました。

3年男子 W

今回の保育実習に臨む際の僕の目標は、「幼児たちについてよく学ぶ」でした。初めて訪問したたから保育園はとてもきれいでびっくりしました。園児たちはみんな元気で、中学生の自分たちが忘れていた何かを思い出させてくれました。



3年女子 G

小さい子とどういう風に接したらいいか、初めわからなかったけど、自分から話しかけたらどんどん寄ってきてくれて、たくさん遊べて楽しかったです。小さい子に怖がられないように、笑顔で接するようにしました。新聞で剣を作ったりするのは難しかったです。でも、たくさんの子にたくさん物を作ってあげられたので良かったです。



佐々木小・中学生が共に取り組んだ短歌の創作授業

10月25日（水）に、佐々木中学校体育館に佐々木中学校全校生徒と佐々木小学校5・6年生が集まり、「短歌の創作授業」が行われました。東京学校新潟高等学校の田村裕先生を講師にお迎えし、5時間目と6時間目の約2時間をかけて、短歌の魅力や短歌の作り方について教えていただきました。

授業の前半には、田村先生から短歌の五七五七七の基本的な構成」として、次の2点を教えていただきました。

- ① 眼にしたこと、聞いたこと等、五感で捉えたことを「5 7 5」に並べてみる。
- ② 「5 7 5」で捉えた事について、どのように感じたかを「7 7」で書く。

その後、佐中生が、5月のウォークラリーや9月の体育祭を振り返って読んだ短歌の作品（2年生 S くんや I くん作品）を例に出しながら、短歌を作る上でのポイントについて、小中学生に分かりやすく話してくださいました。

田村先生がこれまでに指導されたご経験のなかから、いくつかの短歌づくりの例を紹介していただきながら、自分が短歌に表現したい言葉を箇条書きした「創作するためのメモ」（例：「ランチ」とか「スープ」とか「いいにおい」などの単語）を基にして、それらのメモの言葉を生かしつつ短歌（五七五七七）にまとめていく過程（短歌創作の流れ）を説明していただきました。

田村先生から紹介される一つ一つの短歌の作品を鑑賞していくなかで、佐々木小中学校の児童生徒も、手書きのメモを土台にし、そして田村先生から教えていただいた「過程」を大切にしていって自分で自分の短歌を作ることができそうだと創作意欲が高まってきているようでした。

作品の紹介の後で、スクリーン上に「短歌創作のポイント」や「感動した場面を見つけよう」を写しながら、短歌創作上の留意事項を繰り返し指導していただきました。



6 時間目は、小中学生が田村先生から教えていただいた創作のポイントを踏まえて、工夫をこらして短歌を自作する時間となりました。中学生や小学生の数名は、自分が作った短歌をもって田村先生の待つ机の所まで出かけ、田村先生から直接ご指導を受ける姿がありました。



田村先生からは、予定の講義時間を越えているにもかかわらず、自作の短歌を手にもち並ぶ生徒たち一人一人を熱心にご指導いただきました。東京学館新潟高校は、毎年1月に皇居で開催される「歌会始の儀」に平成26年からの4年間に3度選ばれるという快挙を遂げています。この日の田村先生の熱く、そして楽しくお話しされる姿からも、田村先生の日頃からの短歌のご指導がその快挙の原動力となっていることが伺い知れました。

佐々木小中学生が創作した短歌（創作途中だったメモ）は、この日、田村先生が学校に持ち帰られました。田村先生からは、後日、児童生徒が考えたメモや作品を添削していただいた短歌の作品が届く予定になっています。どんな短歌作品となって手元に届くか、今から楽しみです。



【短歌の創作授業を終えて】

1 年女子 T

短歌のことは「5 7 5 7 7」くらいしか知らなかったのですが、5W（いつ、どこで、誰が、何を、どうした）や五感（視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚）、数字を使ったりといった工夫が大切だと知りました。自分の短歌を考えるときは、楽しくて、あっという間に時間が過ぎていくように感じられました。私の考えた短歌が、田村先生の手でどう変化するのか楽しみです。今日の授業の感想を短歌風に表すと、「5, 6 限 あっという間の50分 楽しかったな 短歌づくり」です。

1 年女子 K

今までの私のもつ短歌のイメージは、「難しい言葉が多い」「つくるのに時間がかかる」など、マイナスのものでした。しかし、今回の授業で、プラスのイメージに変わりました。田村先生から教えていただいたポイントを押さえておけば、簡単に作れそうです。いろいろな時に短歌を作ってみるのもいいかもしれないと思うようになりました。田村先生も明るい先生で、お話を聞いてとても楽しかったです。また機会があったら短歌を作ってみます。

1 年男子 O

まず僕がびっくりしたことは、「俳句は季語を使って、短歌は季語を使わなくてもよい」ということです。短歌の前半の「5 7 5」では五感にかかわることを加えることが大事だと分かりました。

「五感」という言葉を初めて知ったので、覚えておくことにしました。短歌を工夫するポイントとして「数字」を使うことがあるとも習いました。短歌のテーマに関する数字を書き加えることで、短歌の出来が変わってくると感じました。今日の学習で学んだことを、今後短歌を作るときに役立てたいです。

1年女子 S

私は、短歌は昔の人が使うようなむずかしい言葉などをたくさん使う方がいいのかなと思っていたのですが、そうではなくて、「自分の言葉、今の言葉」で書くことが大事ということを知りました。書きたいことを遠慮せずに、着眼点を決めて、思い浮かんだことを5Wに気をつけて書くことで必ず短歌ができると言われたので、短歌を作るときには、むずかしく考え過ぎずに、楽しく短歌を作ることができると思います。



1年男子 N

僕は、短歌も俳句もどちらも季語をいれることが必要と思っていて、短歌を作るのは難しいだろうなと感じていました。ですが、短歌の創作に取り組んでみて、すごく楽しく短歌を作ることができました。田村先生からの添削（てんさく）でどんな作品になるかが、今からとても待ち遠しいです。



小学6年女子 A

今回の学習で、いろいろな短歌の表現の仕方が分かりました。短歌はむずかしく考えずに、自分の感情が表せることを知りました。それが分かった時に、「短歌は自分の思っていることが書けていいな」と思いました。

小学6年男子 Y

ぼくは、短歌は俳句と同じように季語を付けたりすると思っていました。しかし、田村先生のお話を聞いて、短歌には季語がいらないこと、そして短歌は自分の思いを「5 7 5 7 7」で書き表すことを知りました。今回の学習の最後には、自分なりの短歌を作ることができました。

小学5年男子 T

短歌と聞いて、百人一首のように昔の言葉でむずかしそうなことを書くのだと思っていました。だけど、田村先生が紹介してくれた短歌では、わかめスープのことなどむずかしくもない、今の言葉を使って、短歌のイメージが変わりました。そして、色や数字などを使うとさらによくなると教えていただき、ぼくも短歌を作るときは、そうしてみようと思いました。短歌は俳句よりも簡単で、今の気持ちをストレートに書ける、おもしろいものだ分かりました。「俳句よりも文字数が多いから、しっかりと書ける」という田村先生のお話からも、短歌には色々ないいことがあるのだなと思いました。

小学5年女子 U

私は、今回の学習で、短歌をつくる上では五感ということが大切なことを知りました。そして、短歌づくりのポイントとして、言葉をくり返すこと、色や数字を入れること、そして「何を短歌にするのか」という着眼点などを工夫すれば短歌ができることが分かりました。田村先生から教えていただいて、短歌についてもっと知りたいと思いました。（生徒の作品は、希望があれば、短歌コンクールなどへの出品を予定しています。）



「文化の秋」「体育の秋」を満喫。 生徒の活躍を紹介します

新発田市美術展覧会（ジュニア展）での作品展示

新発田市美術展覧会が、10月20日～24日まで新発田市カルチャーセンター正面玄関ホールにて開催されました。佐々木中学校からは3名の生徒の作品が展示されました。



学校代表として、1年Nさん、2年Sさん、3年Hさんの3名の作品が展示されました。

『税についての作文』新発田税務署長賞 「税とはなくてはならないもの」 3年 I

(11月15日(水) 市生涯学習センターにて表彰式が開催されました。)

「税とはなくてはならないもの」 3年 I

新潟県で集まった税金(10兆2,548億円)のうち、医療や介護に使われているのは全体の13.5%(約1,690億円)だそうだ。県民一人あたり1年間で約12万4,700円が使われる。私たちが納めてみいる税金によって名前も知らない誰かの手術費や入院費などの負担を少しでも減らす役に立っていると考えるとうれしい。今まで私たちが納めてきた税金、今も納めている税金は病気の人などに使われている。それだけに限らずもっともっとたくさんのことに使われている。税金が困っている人に使われるのはとてもいいことだと思う。だから、これからも税金を納めることは大事だし税金はなくてはならないものだ。(一部を抜粋して紹介しました。)



3年 I

新発田市生涯学習センターという大きな会場での表彰式に出席し、表彰される場面ではとても緊張しました。

国土緑化運動・育樹運動標語 (公益財団法人 にいがた緑の百年物語緑化推進委員会)

- 奨励賞 3年 HS「つないでいこう 緑の命 未来まで」
- 奨励賞 2年 SY「守ろうよ 百年先の 豊かな緑」
- 奨励賞 1年 GS「優しさで 緑の命 つなごうよ」

(上記財団法人HPでも、見ることができます)

村上市体育協会荒川地区剣道大会 第28回松浦賢司杯剣道大会

(11月5日開催)

中学生男子団体 第3位

(1年Ya、1年S、1年I、1年O、1年Yo)

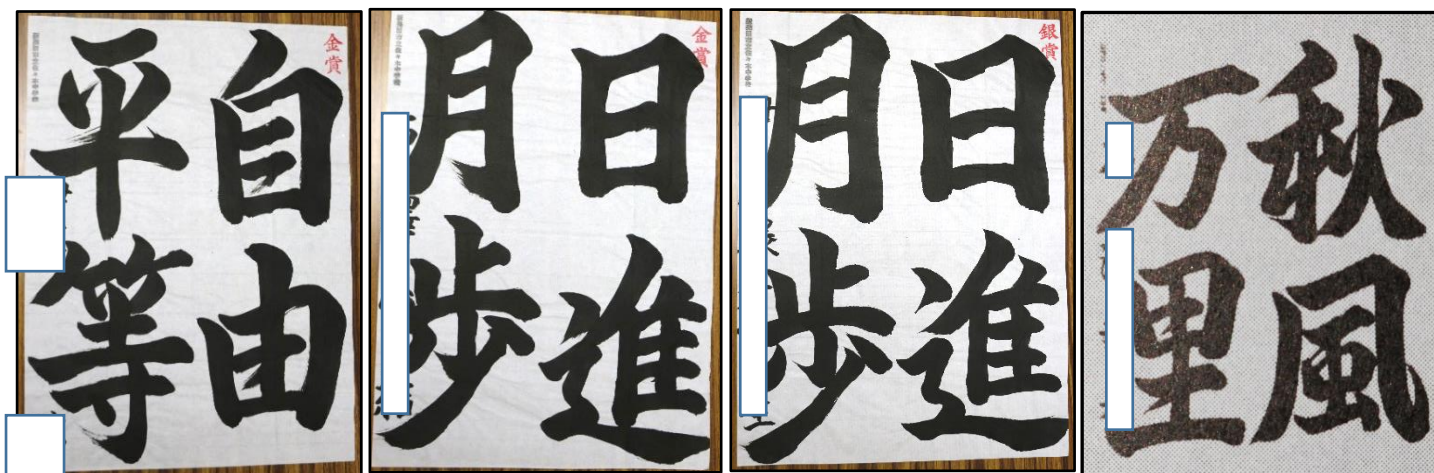
右は、新発田市新人大会の写真です。



新潟県書道教育研究会競書大会（主催 新潟県書道教育研究会）

金賞 3年 IA「自由平等」 1年 IM「日進月歩」

銀賞 1年 IK「日進月歩」 2年 IS「白砂青松」



新大全国競書大会

（主催 新潟大学書道教育学会）

準特選 2年 IS「秋風万里」

秀作 1年 IM

1年 IK

3年 IA

2年 IS

新大全国競書大会と県書道研究会競書大会の作品づくりに何時間も時間をかけて練習しました。小学校の時に応募したときにも準特選をいただいたことがありましたが、中学生になってからは、今回初めて準特選を受賞することができ、とてもうれしかったです。

新発田市読書感想文コンクール

優良賞 2年 T『『自閉症の僕が跳びはねる理由』を読んで』

奨励賞 3年 Y 1年 G 1年 W

自閉症の僕が跳びはねる理由を読んで 2年 T

この本は自閉症者の東田直樹さんが、いままで理解されにくかった自閉症者の内面を平易な言葉で伝えています。私にはこの本に書かれていること全てがとても新鮮でした。

私はこの本を読んで完璧とはいえないけれど、自閉症を理解できました。私はこの本から、どんなことがあっても障害を持っている人と私たちが平等でいえないといけないとあらためて思いました。そして、筆者の東田さんの障害を持っても前向きに生きる姿に感動しました。筆者は「自分はもしふつうの人になれる薬が発明されても、自分はこのままでいる。」と言っていました。私はそれは、自分のことを認めて、自分を好きになったからだと思います。そんなに自信を持てるのはすごいと思いました。私はこの本を選んで本当によかったと思います。この本を読んで少しでも考え方が変わる人がいれば、この世の中はもっと変わると思います。

（一部を抜粋して紹介しました。）

対象図書：『自閉症の僕が跳びはねる理由』（東田直樹著 角川文庫）

平成29年度 第1回漢字検定合格者（7月実施）

準2級 K（3年）

4級 I（3年） T（3年）

Y（3年） I（2年）

S（2年）

5級 SY SH N WT WR（5名とも1年）

